

第 8 回留学報告書

アメリカに留学してから四年が経ちました。今回はここ一年間の報告をします。

今年度は三年目に取り組んだ単著の論文の完成に主に取り組んでいました。三年目は何かしらの結果を出し、指導教授を含む教員の方々と議論できるプロトタイプを作ることに注力していました。コロナの影響に加えて、研究のパンチラインを出すという必然的に経済学では孤独になるプロセスにあったため、あまり NYU のコミュニティの一部であるという感覚はありませんでした。

今年は本格的にそのプロトタイプを指導教授や他の教員の方々に持っていき、そこでもらったフィードバックをもとにしてブラッシュアップをしていく作業をしていました。このプロセスを通じて、様々な方々とコミュニケーションをとることができた結果、コミュニティ内でのつながりを感じることができました。さらには指導教授たちからいただいたコメントやアドバイスを通じて、一年目や二年目の授業の時には一見脈絡のなさそうだった様々な知識の繋がりにも気づくことができました。話を聞いてくださるどの先生も「いつでも話にきなさい」とミーティングの終わりにおっしゃってくださり、恵まれた NYU の環境をありがたく思っています。

現在、この研究は終盤に近づいており、ジョブマーケットペーパーに本腰を入れることとなります。このジョブマーケットペーパーでは、博論審査委員(Dissertation committee)全員が面白いと思うようなリサーチクエスチョンに取り組まなければなりません。これはとても難しいことですが、この目標を達成できるように取り組んで参ります。

最後になりますが、このような恵まれた研究生活をさせていただいているのは御財団のご支援の賜物でございます。本当にありがとうございます。日本は現在酷暑であると存じますが、財団の皆様もお元気でお過ごしください。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。